

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	研究科の専攻の設置（国際連携専攻）							
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウシヨウ ナゴヤダイガク 国立大学法人 名古屋大学							【連携外国大学の設置者】 オーストラリア連邦西オーストラリア州
フリガナ大学の名称	ナゴヤダイガクダクイン 名古屋大学大学院（Graduate School of Nagoya University）							【連携外国大学の名称】  The University of Western Australia
大学本部の位置	愛知県名古屋市千種区不老町1							【連携外国大学の本部の位置】 35 Stirling Highway Perth WA 6009 Australia
大学の目的	名古屋大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者の養成を目的とする。							
新設学部等の目的	世界のトップ研究大学とジョイント・ディグリープログラムを実施することで、互いの特徴を活かし、一国では成し得ない相補的な大学院教育システムを構築する。本専攻では、本学における基礎研究を補完するとともに応用・実証研究を進展させ、気候変動が及ぼす地球規模の農業生態系の諸問題を解決し、持続可能な農業を目指した実証研究を展開することで、世界屈指の先端研究の実現を図る。 また合同で学位を審査することで、学位の国際的質保証を担保する。これらを通じて、研究力ならびに教育力の国際的評価を獲得し、大学の国際的発信力と競争力の向上を図る。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	生命農学研究科 (Graduate School of Bioagricultural Sciences) 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻 (International Collaborative Program in Agricultural Sciences between Nagoya University and The University of Western Australia)	年	人	年次人	人	博士 (農学) (Doctor of Philosophy)	平成31年4月 第1年次	愛知県名古屋市千種区不老町1
	計	—	2	—	6			

【連携外国大学の学部等及び所在地】  
Faculty of Science,  
The University of Western Australia  
35 Stirling Highway  
Perth WA 6009  
Australia  
  
<>は本専攻を置く研究科の収容定員等

同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	医学部 保健学科看護学専攻（3年次編入学定員）（△10） 保健学科放射線技術科学専攻（3年次編入学定員）（△5） 保健学科検査技術科学専攻（3年次編入学定員）（△5） 保健学科理学療法専攻（2年次編入学定員）（△3） 保健学科作業療法専攻（2年次編入学定員）（△3） ※2年次編入学定員及び3年次編入学定員は平成31年4月学生募集停止											
	生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻（博士後期課程）〔定員減〕（△1）（平成31年4月） 応用生命科学専攻（博士後期課程）〔定員減〕（△1）（平成31年4月）											
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数						
		講義	演習	実験・実習	計							
	生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻	0 科目	9 科目	6 科目	15 科目	24 単位						
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	【連携外国大学と調整を行う専任教員の状況等】 人数：1名 職位：助教 所属：名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻			
	新設分	生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻	教授	准教授	講師	助教	計	助手		人		
			40 (40)	45 (45)	17 (17)	23 (23)	125 (125)	0 (0)		2 (2)		
	計	40 (40)	45 (45)	17 (17)	23 (23)	125 (125)	0 (0)	2 (2)				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等				
	既設分	人文学研究科 人文学専攻 (博士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手		人		
			46 (46)	50 (50)	1 (1)	7 (7)	104 (104)	0 (0)		32 (32)		
			教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士課程)	13 (13)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	23 (23)		0 (0)	9 (9)	
				心理発達科学専攻 (博士課程)	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)		12 (12)	0 (0)	4 (4)
					法学研究科 総合法政専攻 (博士課程)	29 (29)	10 (10)	15 (15)		2 (2)	56 (56)	2 (2)
			実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	13 (13)		0 (0)	0 (0)	0 (0)		13 (13)	0 (0)	3 (3)
			経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士課程)	10 (10)		11 (11)	1 (1)	1 (1)		23 (23)	0 (0)	5 (5)
				産業経営システム専攻 (博士課程)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)		15 (15)	0 (0)	5 (5)
				情報学研究科 数理情報学専攻 (博士課程)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	2 (2)		10 (10)	0 (0)	0 (0)
			複雑系科学専攻 (博士課程)		12 (12)	6 (6)	2 (2)	3 (3)		23 (23)	0 (0)	2 (2)
			社会情報学専攻 (博士課程)		2 (2)	5 (5)	1 (1)	0 (0)		8 (8)	0 (0)	3 (3)
			心理・認知科学専攻 (博士課程)		5 (5)	5 (5)	1 (1)	1 (1)		12 (12)	0 (0)	2 (2)
			情報システム学専攻 (博士課程)		5 (5)	4 (4)	0 (0)	3 (3)		12 (12)	0 (0)	11 (11)
知能システム学専攻 (博士課程)			5 (5)	3 (3)	0 (0)	5 (5)	13 (13)	0 (0)	12 (12)			

学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教員等
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
理学研究科							
素粒子宇宙物理学専攻 (博士課程)	8 (8)	14 (14)	6 (6)	12 (12)	40 (40)	0 (0)	41 (41)
物質理学専攻 (博士課程)	16 (16)	13 (13)	8 (8)	18 (18)	55 (55)	0 (0)	32 (29)
生命理学専攻 (博士課程)	9 (9)	8 (8)	12 (12)	10 (10)	39 (39)	0 (0)	20 (20)
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士課程)	57 (57)	49 (49)	27 (27)	43 (43)	176 (176)	0 (0)	0 (0)
医学系研究科							
総合医学専攻 (博士課程)	71 (71)	64 (64)	68 (68)	172 (172)	375 (375)	0 (0)	86 (86)
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	68 (68)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	80 (80)	0 (0)	0 (0)
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	68 (68)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	80 (80)	0 (0)	0 (0)
名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	68 (68)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	78 (78)	0 (0)	0 (0)
医科学専攻 (修士課程)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (35)
看護学専攻 (博士課程)	12 (12)	8 (8)	1 (1)	11 (11)	32 (32)	0 (0)	4 (4)
医療技術学専攻 (博士課程)	14 (14)	8 (8)	3 (3)	7 (7)	32 (32)	0 (0)	3 (3)
リハビリテーション療法学専攻 (博士課程)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	1 (1)
工学研究科							
有機・高分子化学専攻 (博士課程)	6 (6)	6 (6)	3 (3)	7 (7)	22 (22)	0 (0)	6 (6)
応用物質化学専攻 (博士課程)	6 (6)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	19 (19)	0 (0)	6 (6)
生命分子工学専攻 (博士課程)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	7 (7)
応用物理学専攻 (博士課程)	8 (8)	7 (7)	1 (1)	9 (9)	25 (25)	0 (0)	8 (8)
物質科学専攻 (博士課程)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	10 (10)	23 (23)	0 (0)	6 (6)
材料デザイン工学専攻 (博士課程)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
物質プロセス工学専攻 (博士課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	15 (15)	0 (0)	6 (6)
化学システム工学専攻 (博士課程)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	7 (7)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
電気工学専攻 (博士課程)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
電子工学専攻 (博士課程)	6 (6)	4 (4)	2 (2)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	9 (9)
情報・通信工学専攻 (博士課程)	6 (6)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	7 (7)
機械システム工学専攻 (博士課程)	9 (9)	12 (12)	1 (1)	12 (12)	34 (34)	0 (0)	5 (5)
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士課程)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	15 (15)
航空宇宙工学専攻 (博士課程)	6 (6)	2 (2)	4 (4)	7 (7)	19 (19)	0 (0)	5 (5)
エネルギー理工学専攻 (博士課程)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	5 (5)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
総合エネルギー工学専攻 (博士課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	3 (3)
土木工学専攻 (博士課程)	6 (6)	7 (7)	1 (1)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	18 (18)

教員組織の概要

既設分

学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻 (博士課程)	8 (8)	7 (7)	4 (4)	3 (3)	22 (22)	0 (0)	5 (5)
植物生産科学専攻 (博士課程)	6 (6)	5 (5)	2 (2)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	14 (14)
動物科学専攻 (博士課程)	6 (6)	7 (7)	3 (3)	6 (6)	22 (22)	0 (0)	9 (9)
応用生命科学専攻 (博士課程)	17 (17)	16 (16)	9 (9)	10 (10)	52 (52)	0 (0)	10 (10)
名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻 (博士課程)	48 (48)	46 (46)	17 (17)	23 (23)	134 (134)	0 (0)	0 (0)
国際開発研究科 国際開発協力専攻 (博士課程)	10 (10)	7 (7)	2 (2)	5 (5)	24 (24)	0 (0)	18 (18)
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士課程)	24 (24)	20 (20)	1 (1)	8 (8)	53 (53)	0 (0)	17 (17)
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士課程)	18 (18)	10 (10)	2 (2)	7 (7)	37 (37)	0 (0)	31 (31)
都市環境学専攻 (博士課程)	12 (12)	10 (10)	1 (1)	5 (5)	28 (28)	0 (0)	9 (9)
社会環境学専攻 (博士課程)	11 (11)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	1 (1)
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士課程)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	18 (18)	0 (0)	2 (2)
計	512 (512)	422 (422)	166 (166)	429 (429)	1,529 (1,529)	2 (2)	- (-)
合計	574 (574)	450 (450)	161 (161)	374 (374)	1,559 (1,559)	2 (2)	- (-)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計	
	事 務 職 員	674 (674)		1,285 (1,285)		1,959 (1,959)	
	技 術 職 員	1,725 (1,725)		800 (800)		2,525 (2,525)	
	図 書 館 専 門 職 員	51 (51)		- (-)		51 (51)	
	そ の 他 の 職 員	1 (1)		159 (159)		160 (160)	
計	2,451 (2,451)		2,244 (2,244)		4,695 (4,695)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地	617,966 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		617,966 m <sup>2</sup>	
	運 動 場 用 地	105,994 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		105,994 m <sup>2</sup>	
	小 計	723,960 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		723,960 m <sup>2</sup>	
	そ の 他	2,495,186 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		2,495,186 m <sup>2</sup>	
合 計	3,219,146 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		3,219,146 m <sup>2</sup>		
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	578,743 m <sup>2</sup> (578,743 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		578,743 m <sup>2</sup> (578,743 m <sup>2</sup> )		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
	234室	240室	1,326室	17室 (補助職員 1人)	14室 (補助職員 0人)		
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			
	生命農学研究科名古屋大学・西オー ストリア大学国際連携生命農学専攻			125 室			

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	生命農学研究科名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻	112,218 [50,997] (112,218 [50,997])	4,378 [1,385] (4,378 [1,385])	20,848 [20,776] (20,848 [20,776])	115 (14)	0 (0)	0 (0)		
	計	112,218 [50,997] (112,218 [50,997])	4,378 [1,385] (4,378 [1,385])	20,848 [20,776] (20,848 [20,776])	115 (14)	0 (0)	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		申請大学全体			
	24,829 m <sup>2</sup>	2,031 席		3,140,500 冊					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					申請大学全体		
	9,229 m <sup>2</sup>	弓道場, プール (25m×7コース), 陸上競技場 (400mトラック), テニスコート (11面), 野球場 (1面), 相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1カ所)							
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
	図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし							
既設大学等の状況	大学の名称	名古屋大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	文学部	年	人	年次人	人		倍	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	人文学科	4	125	3年次10	520	学士(文学)	1.05	平成8年度	
	教育学部				280			昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士(教育学)	1.09	平成9年度	
	法学部				620			昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.05	平成9年度	
	経済学部				840		1.06	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	経済学科	4	140		560	学士(経済学)		昭和24年度	
	経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度	
	学部共通			3年次10	20				
	情報文化学部				—			平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度	
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		
学部共通			3年次10	20					
情報学部				270			平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
自然情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	1.03	平成29年度		
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	理学部				1,080		1.07	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
	数理学科	4	55	—	220	学士(理学)		平成7年度		
	物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
	化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
	生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
	地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
	医学部				1,520			昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	3年次編入20人を含む。保健学科については、2年次編入18人及び3年次編入40人を含む。
	医学科	6	107	3年次5	662	学士(医学)	1.02	昭和24年度		
	保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度		
工学部				—				昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成8年度			
物理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成9年度			
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成7年度			
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成6年度			
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成8年度			
化学生命工学科	4	99	—	198	学士(工学)	1.03	平成29年度			
物理工学科	4	83	—	166	学士(工学)	1.03	平成29年度			
マテリアル工学科	4	110	—	220	学士(工学)	1.00	平成29年度			
電気電子情報工学科	4	118	—	236	学士(工学)	1.03	平成29年度			
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	300	学士(工学)	1.03	平成29年度			
エネルギー理工学科	4	40	—	80	学士(工学)	1.02	平成29年度			
環境土木・建築学科	4	80	—	160	学士(工学)	1.00	平成29年度			
農学部				680				昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
生物環境科学科	4	35	—	140	学士(農学)	1.08	平成18年度			
資源生物科学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.06	平成18年度			
応用生命科学科	4	80	—	320	学士(農学)	1.08	平成18年度			
合計		2,107	3年次75 2年次6	7,190						

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	2 3	— —	— —	— —	修士(文学) 修士(歴史学) 博士(文学) 博士(歴史学)	— —	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
	人文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	2 3	104 61	— —	208 122	修士(文学) 修士(歴史学) 修士(学術) 博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	1.05 0.83	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程) 心理発達科学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	2 3 2 3	32 16 22 15	— — — —	64 48 44 45	修士(教育学) 修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育) 修士(心理学) 修士(臨床心理学) 博士(心理学)	0.70 0.79 0.76 0.97	昭和28年度 (平成12年度 名称変更) 平成12年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	法学研究科 綜合法政専攻 (博士前期課程) (博士後期課程) 実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	2 3 3	35 17 50	— — —	70 51 150	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学) 博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学) 法務博士 (専門職)	0.84 0.64 0.53	昭和28年度 平成16年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程) (博士後期課程) 産業経営システム専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	2 3 2 3	30 15 14 7	— — — —	60 45 28 21	修士(経済学) 修士(経営管理学) 博士(経済学) 修士(経済学) 博士(経済学)	1.05 0.53 1.35 0.66	昭和28年度 平成12年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	情報学研究科							平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学)	0.85	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	4	—	8	博士(情報学)	1.00		
	複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(情報学)	0.68		
	社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	5	—	10	博士(情報学)	0.90		
	心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	7	—	14	博士(情報学)	0.99		
	情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(情報学)	0.77		
	知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	10	—	20	博士(情報学)	0.90		
		理学研究科							
	素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.11	平成7年度	
	(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.82		
	物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.14	平成7年度	
	(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.66		
	生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	
	(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31		
	名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度	



	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	医学系研究科							昭和30年度 (平成14年度 名称変更)	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	総合医学専攻 (博士課程) 平成30年度入学定員減(△2人)
	総合医学専攻 (博士課程)	4	151	—	618	博士(医学)	1.14	平成25年度		
	名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
	名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
	名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	2	—	2	博士(医学)	—	平成30年度		平成30年10月学生受入開始
	医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
	医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
	看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			
	医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
	(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
	リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
	(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.25			
	工学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度 (平成16年度再編)	
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
	応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			
	生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	6	—	12	博士(工学)	1.16			
	応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(工学)	0.33			
	物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(工学)	0.27			

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
	物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
	化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
	電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
	電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	13	—	26	博士(工学)	0.80		
	情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.75		
	機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	14	—	28	博士(工学)	0.53		
	マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.56		
	航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.06		
	エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	5	—	10	博士(工学)	0.50		
	総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	4	—	8	博士(工学)	0.87		
	土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(工学)	0.49		

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	生命農学研究科							昭和30年度 (平成9年度 名称変更)	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成30年度より 学生募集停止
	生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成11年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
	生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
	応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
	生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
	森林・資材科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度		
	(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42			
	植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度		
	(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33			
	動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度		
	(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28			
	応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度		
	(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64			
	名古屋大学・カセ サート大学国際連携 生命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	1.00	平成30年度		
国際開発研究科								愛知県名古屋市千種区不老町1	平成30年度より 学生募集停止	
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(国際開発学)	—				
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(国際開発学)	—				
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—				

研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
国際開発協力専攻 (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43	平成7年度		
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度		
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	地球環境科学専攻 (博士前期課程) 平成29年度入学定員減(△1人)
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61	平成13年度		
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36	平成13年度		(博士後期課程) 平成29年度入学定員減(△1人)
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学)	0.95	平成13年度		社会環境学専攻 (博士前期課程) 平成29年度入学定員減(△9人)  (博士後期課程) 平成29年度入学定員減(△5人)
(博士後期課程)	3	13	—	44	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科 計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平成15年度		

既設大学等の状況

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度	愛知県名古屋千種区不老町1
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻							平成24年度		
(博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度		
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66	平成26年度		
合計									
博士前期課程		1,604	0	3,013					
博士後期課程		568	0	1,335					
博士課程		161	—	644					
修士課程		30	—	50					
専門職学位課程		50	—	150					
附属施設の概要	名称		目的		所在地		設置年月	規模等 (延面積)	
	環境医学研究所		教育・研究		愛知県名古屋千種区不老町1		昭和21年3月	7,397㎡	
	アイソトープ総合センター						昭和51年5月	2,130㎡	
	遺伝子実験施設						昭和59年4月	1,953㎡	
	国際教育交流センター・国際言語センター						平成23年4月	2,727㎡	
	物質科学国際研究センター						平成10年4月	8,057㎡	
	高等教育研究センター						平成10年4月	405㎡	
	農学国際教育協力研究センター						平成11年4月	510㎡	
博物館						平成12年4月	2,812㎡		

附属施設の概要	名 称	目 的	所在地	設置年月	規模等 (延面積)
	心の発達支援研究実践センター	教育・研究	愛知県名古屋市中 種区不老町1	平成27年4月	38㎡
	法政国際教育協力研究センター			平成14年4月	2,149㎡
	生物機能開発利用研究センター			平成15年4月	2,619㎡
	未来材料・システム研究所			平成27年10月	11,276㎡
	シンクロトロン光研究センター			平成19年4月	502㎡
	基礎理論研究センター			平成22年4月	1,173㎡
	現象解析研究センター			平成22年4月	
	未来社会創造機構			平成26年4月	6,118㎡
	減災連携研究センター			平成24年1月	2,720㎡
	細胞生理学研究センター			平成24年4月	738㎡
	ナショナルコンポジットセンター			平成26年1月	1,987㎡
	予防早期医療創成センター			平成27年7月	585㎡
	宇宙地球環境研究所			平成27年10月	10,634㎡
	トランスフォーマティブ生命 分子研究所			平成25年4月	7,109㎡
	総合保健体育科学センター			昭和50年4月	1,993㎡
	脳とこころの研究センター			平成25年12月	267㎡
	神経疾患・腫瘍分子医療研究 センター	平成15年4月	634㎡		
	医学教育研究支援センター	平成16年5月	6,033㎡		
	学生相談総合センター	教育研究・管理 運営支援	愛知県名古屋市中 種区不老町1	平成13年4月	670㎡
情報基盤センター	研究, 教育等に 係る情報化を推 進するための実 践的調査研究及 び情報技術支援	平成21年4月		5,126㎡	
医学部附属病院	医学の研究, 教 育及び診療	愛知県名古屋市中 種区不老町1		昭和24年5月	89,519㎡

## 国立大学法人名古屋大学 設置認可等に関する組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>名古屋大学</b>				<b>名古屋大学</b>				
<b>文学部</b>				<b>文学部</b>				
人文学科	125	(10)	520	人文学科	125	(10)	520	
<b>教育学部</b>				<b>教育学部</b>				
人間発達科学科	65	(10)	280	人間発達科学科	65	(10)	280	
<b>法学部</b>				<b>法学部</b>				
法律・政治学科	150	(10)	620	法律・政治学科	150	(10)	620	
<b>経済学部</b>				<b>経済学部</b>				
経済学科	140		560	経済学科	140		560	
経営学科	65		260	経営学科	65		260	
(学部共通)		[10]	20	(学部共通)		[10]	20	
<b>情報学部</b>				<b>情報学部</b>				
自然情報学科	38	[4]	160	自然情報学科	38	[4]	160	
人間・社会情報学科	38	[4]	160	人間・社会情報学科	38	[4]	160	
コンピュータ科学科	59	[2]	240	コンピュータ科学科	59	[2]	240	
<b>理学部</b>				<b>理学部</b>				
数理学科	55		220	数理学科	55		220	
物理学科	90		360	物理学科	90		360	
化学科	50		200	化学科	50		200	
生命理学科	50		200	生命理学科	50		200	
地球惑星科学科	25		100	地球惑星科学科	25		100	
<b>医学部</b>				<b>医学部</b>				
医学科	107	(5)	662	医学科	107	(5)	662	
保健学科看護学専攻	80	(10)	340	<u>保健学科看護学専攻</u>	80	(0)	320	平成31年4月編入学廃止
保健学科放射線技術科学専攻	40	(5)	170	<u>保健学科放射線技術科学専攻</u>	40	(0)	160	平成31年4月編入学廃止
保健学科検査技術科学専攻	40	(5)	170	<u>保健学科検査技術科学専攻</u>	40	(0)	160	平成31年4月編入学廃止
保健学科理学療法学専攻	20	《3》	89	<u>保健学科理学療法学専攻</u>	20	《0》	80	平成31年4月編入学廃止
保健学科作業療法学専攻	20	《3》	89	<u>保健学科作業療法学専攻</u>	20	《0》	80	平成31年4月編入学廃止
<b>工学部</b>				<b>工学部</b>				
化学生命工学科	99		396	化学生命工学科	99		396	
物理工学科	83		332	物理工学科	83		332	
マテリアル工学科	110		440	マテリアル工学科	110		440	
電気電子情報工学科	118		472	電気電子情報工学科	118		472	
機械・航空宇宙工学科	150		600	機械・航空宇宙工学科	150		600	
エネルギー理工学科	40		160	エネルギー理工学科	40		160	
環境土木・建築学科	80		320	環境土木・建築学科	80		320	
<b>農学部</b>				<b>農学部</b>				
生物環境科学科	35		140	生物環境科学科	35		140	
資源生物科学科	55		220	資源生物科学科	55		220	
応用生命科学科	80		320	応用生命科学科	80		320	
計	2107	81	8820	計	2107	55	8762	

( )は第3年次編入学定員で外数  
 [ ]は学部共通の第3年次編入学定員で外数  
 《 》は第2年次編入学定員で外数



平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
<b>名古屋大学大学院</b>			
<b>人文学研究科</b>			
人文学専攻	M	104	208
人文学専攻	D	61	183
<b>教育発達科学研究科</b>			
教育科学専攻	M	32	64
教育科学専攻	D	16	48
心理発達科学専攻	M	22	44
心理発達科学専攻	D	15	45
<b>法学研究科</b>			
総合法政専攻	M	35	70
総合法政専攻	D	17	51
実務法曹養成専攻	P	50	150
<b>経済学研究科</b>			
社会経済システム専攻	M	30	60
社会経済システム専攻	D	15	45
産業経営システム専攻	M	14	28
産業経営システム専攻	D	7	21
<b>情報学研究科</b>			
数理情報学専攻	M	14	28
数理情報学専攻	D	4	12
複雑系科学専攻	M	36	72
複雑系科学専攻	D	8	24
社会情報学専攻	M	18	36
社会情報学専攻	D	5	15
心理・認知科学専攻	M	15	30
心理・認知科学専攻	D	7	21
情報システム学専攻	M	32	64
情報システム学専攻	D	9	27
知能システム学専攻	M	29	58
知能システム学専攻	D	10	30
<b>理学研究科</b>			
素粒子宇宙物理学専攻	M	66	132
素粒子宇宙物理学専攻	D	30	90
物質理学専攻	M	63	126
物質理学専攻	D	22	66
生命理学専攻	M	42	84
生命理学専攻	D	18	54
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻	D	2	6
<b>医学系研究科</b>			
総合医学専攻	D	153	612
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻	D	4	16
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻	D	4	16
医科学専攻	M	20	40
(医療行政コース)	M	10	10
看護学専攻	M	18	36
看護学専攻	D	6	18
医療技術学専攻	M	20	40
医療技術学専攻	D	7	21
リハビリテーション療法学専攻	M	10	20
リハビリテーション療法学専攻	D	4	12
<b>工学研究科</b>			
有機・高分子化学専攻	M	34	68
有機・高分子化学専攻	D	8	24
応用物質化学専攻	M	34	68
応用物質化学専攻	D	8	24
生命分子工学専攻	M	28	56
生命分子工学専攻	D	6	18
応用物理学専攻	M	39	78
応用物理学専攻	D	9	27

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>名古屋大学大学院</b>				
<b>人文学研究科</b>				
人文学専攻	M	104	208	
人文学専攻	D	61	183	
<b>教育発達科学研究科</b>				
教育科学専攻	M	32	64	
教育科学専攻	D	16	48	
心理発達科学専攻	M	22	44	
心理発達科学専攻	D	15	45	
<b>法学研究科</b>				
総合法政専攻	M	35	70	
総合法政専攻	D	17	51	
実務法曹養成専攻	P	50	150	
<b>経済学研究科</b>				
社会経済システム専攻	M	30	60	
社会経済システム専攻	D	15	45	
産業経営システム専攻	M	14	28	
産業経営システム専攻	D	7	21	
<b>情報学研究科</b>				
数理情報学専攻	M	14	28	
数理情報学専攻	D	4	12	
複雑系科学専攻	M	36	72	
複雑系科学専攻	D	8	24	
社会情報学専攻	M	18	36	
社会情報学専攻	D	5	15	
心理・認知科学専攻	M	15	30	
心理・認知科学専攻	D	7	21	
情報システム学専攻	M	32	64	
情報システム学専攻	D	9	27	
知能システム学専攻	M	29	58	
知能システム学専攻	D	10	30	
<b>理学研究科</b>				
素粒子宇宙物理学専攻	M	66	132	
素粒子宇宙物理学専攻	D	30	90	
物質理学専攻	M	63	126	
物質理学専攻	D	22	66	
生命理学専攻	M	42	84	
生命理学専攻	D	18	54	
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻	D	2	6	
<b>医学系研究科</b>				
総合医学専攻	D	153	612	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻	D	4	16	
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻	D	4	16	
医科学専攻	M	20	40	
(医療行政コース)	M	10	10	
看護学専攻	M	18	36	
看護学専攻	D	6	18	
医療技術学専攻	M	20	40	
医療技術学専攻	D	7	21	
リハビリテーション療法学専攻	M	10	20	
リハビリテーション療法学専攻	D	4	12	
<b>工学研究科</b>				
有機・高分子化学専攻	M	34	68	
有機・高分子化学専攻	D	8	24	
応用物質化学専攻	M	34	68	
応用物質化学専攻	D	8	24	
生命分子工学専攻	M	28	56	
生命分子工学専攻	D	6	18	
応用物理学専攻	M	39	78	
応用物理学専攻	D	9	27	

平成30年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
物質科学専攻	M	39		78	物質科学専攻	M	39		78	
物質科学専攻	D	9		27	物質科学専攻	D	9		27	
材料デザイン工学専攻	M	34		68	材料デザイン工学専攻	M	34		68	
材料デザイン工学専攻	D	8		24	材料デザイン工学専攻	D	8		24	
物質プロセス工学専攻	M	35		70	物質プロセス工学専攻	M	35		70	
物質プロセス工学専攻	D	9		27	物質プロセス工学専攻	D	9		27	
化学システム工学専攻	M	34		68	化学システム工学専攻	M	34		68	
化学システム工学専攻	D	8		24	化学システム工学専攻	D	8		24	
電気工学専攻	M	34		68	電気工学専攻	M	34		68	
電気工学専攻	D	9		27	電気工学専攻	D	9		27	
電子工学専攻	M	47		94	電子工学専攻	M	47		94	
電子工学専攻	D	13		39	電子工学専攻	D	13		39	
情報・通信工学専攻	M	33		66	情報・通信工学専攻	M	33		66	
情報・通信工学専攻	D	8		24	情報・通信工学専攻	D	8		24	
機械システム工学専攻	M	66		132	機械システム工学専攻	M	66		132	
機械システム工学専攻	D	14		42	機械システム工学専攻	D	14		42	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻	M	36		72	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	M	36		72	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻	D	8		24	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	D	8		24	
航空宇宙工学専攻	M	38		76	航空宇宙工学専攻	M	38		76	
航空宇宙工学専攻	D	8		24	航空宇宙工学専攻	D	8		24	
エネルギー理工学専攻	M	18		36	エネルギー理工学専攻	M	18		36	
エネルギー理工学専攻	D	5		15	エネルギー理工学専攻	D	5		15	
総合エネルギー工学専攻	M	18		36	総合エネルギー工学専攻	M	18		36	
総合エネルギー工学専攻	D	4		12	総合エネルギー工学専攻	D	4		12	
土木工学専攻	M	36		72	土木工学専攻	M	36		72	
土木工学専攻	D	9		27	土木工学専攻	D	9		27	
<b>生命農学研究科</b>					<b>生命農学研究科</b>					
森林・環境資源科学専攻	M	27		54	森林・環境資源科学専攻	M	27		54	
森林・環境資源科学専攻	D	7		21	森林・環境資源科学専攻	D	<u>6</u>		<u>18</u>	
植物生産科学専攻	M	30		60	植物生産科学専攻	M	30		60	
植物生産科学専攻	D	9		27	植物生産科学専攻	D	9		27	
動物科学専攻	M	28		56	動物科学専攻	M	28		56	
動物科学専攻	D	7		21	動物科学専攻	D	7		21	
応用生命科学専攻	M	66		132	応用生命科学専攻	M	66		132	
応用生命科学専攻	D	17		51	応用生命科学専攻	D	<u>16</u>		<u>48</u>	
名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻	D	2		6	名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻	D	2		6	
					名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻	D	<u>2</u>		<u>6</u>	専攻の設置(意見伺い)
<b>国際開発研究科</b>					<b>国際開発研究科</b>					
国際開発協力専攻	M	44		88	国際開発協力専攻	M	44		88	
国際開発協力専攻	D	22		66	国際開発協力専攻	D	22		66	
<b>多元数理科学研究科</b>					<b>多元数理科学研究科</b>					
多元数理科学専攻	M	47		94	多元数理科学専攻	M	47		94	
多元数理科学専攻	D	30		90	多元数理科学専攻	D	30		90	
<b>環境学研究科</b>					<b>環境学研究科</b>					
地球環境科学専攻	M	53		106	地球環境科学専攻	M	53		106	
地球環境科学専攻	D	24		72	地球環境科学専攻	D	24		72	
都市環境学専攻	M	47		94	都市環境学専攻	M	47		94	
都市環境学専攻	D	21		63	都市環境学専攻	D	21		63	
社会環境学専攻	M	27		54	社会環境学専攻	M	27		54	
社会環境学専攻	D	13		39	社会環境学専攻	D	13		39	
<b>創薬科学研究科</b>					<b>創薬科学研究科</b>					
基盤創薬学専攻	M	32		64	基盤創薬学専攻	M	32		64	
基盤創薬学専攻	D	10		30	基盤創薬学専攻	D	10		30	
計		2413		5756	計		2413		5756	

Mは修士課程, 博士課程前期課程  
Dは博士課程, 博士課程後期課程  
Pは専門職学位課程

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考								
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学													
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計					
専門科目	博士論文研究ⅠA		1通	名古屋大学	6					○	40	45	17	23	0	125								125	兼2	オムニバス オムニバス			
	博士論文研究ⅡA		2通	名古屋大学	6					○	40	45	17	23	0	125								125	兼2				
	博士論文研究ⅢA		3通	名古屋大学	6					○	40	45	17	23	0	125								125	兼2				
	特別講義A（生命農学本論）		1-3前	名古屋大学		1				○	6	3	0	0	0	12								12	兼2				
	特別講義A（研究リテラシー）		1-3後	名古屋大学		1				○	5	1	0	0	0	7								7					
	特別講義A（生命農学基礎講義）		1-3前	名古屋大学		1				○	0	2	4	1	0	7								7					
	特別講義A（データサイエンス1）		1-3通	名古屋大学		1				○	0	1	0	0	0	1								1					
	特別講義A（データサイエンス2）		1-3通	名古屋大学		1				○	0	0	2	0	0	2								2					
	特別講義A（データサイエンス3）		1-3通	名古屋大学		1				○	0	0	1	0	0	1								1					
	小計（9科目）		—			18	6	0		—	40	45	17	23	0	125	0	0	0	0	0	0	0	125	兼2				
	博士論文研究ⅠB		1通	西オーストラリア大学	6					○							16	7	8	1	0	32	32						
	博士論文研究ⅡB		2通	西オーストラリア大学	6					○							16	7	8	1	0	32	32						
	博士論文研究ⅢB		3通	西オーストラリア大学	6					○							16	7	8	1	0	32	32						
	特別講義B（自然科学データマネジメント・分析特論）		1-3通	西オーストラリア大学		2				○							0	0	1	0	0	1	1						
	特別講義B（サイエンスプレゼンテーションセミナー）		1-3通	西オーストラリア大学		2				○							0	0	1	0	0	1	1						
特別講義B（アカデミックライティングワークショップ）		1-3通	西オーストラリア大学		2				○							0	0	1	0	0	1	1							
小計（6科目）		—			18	6	0		—	0	0	0	0	0	0	16	7	8	1	0	32	32							
研究指導			1-3通	名古屋大学・西オーストラリア大学					—							40	45	17	23	0	125	16	7	8	1	0	32	157	兼2
合計（15科目）			—		18	6	0		—	40	45	17	23	0	125	16	7	8	1	0	32	157	兼2						

学位又は称号	博士（農学）(Doctor of Philosophy)	学位又は学科の分野	農学関係		
卒業要件及び履修方法	開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等		
（国際連携生命農学専攻の修了要件） 原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究IA, IIIA、副大学開講科目から博士論文研究IIBとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上（そのうち特別講義Aから4単位、特別講義Bから2単位以上）、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。	名古屋大学	24(18)	1 学年の学期区分	2学期	
	西オーストラリア大学	24(18)	1 学期の授業期間	15週	
	共同開設科目	0(0)	1 時限の授業時間	90分	
（連携外国大学の修了要件） 原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究IB, IIIB、副大学開講科目から博士論文研究IIAとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上（そのうち特別講義Bから4単位、特別講義Aから2単位以上）、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。					

（注）

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻）（名古屋大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考					
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						小計	合計			
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員				助手に相当する教員	小計	合計
専門科目	博士論文研究ⅠA		1通	名古屋大学	6					○	40	45	17	23	0	125								125	兼2	オムニバス オムニバス
	博士論文研究ⅡA		2通	名古屋大学	6					○	40	45	17	23	0	125								125	兼2	
	博士論文研究ⅢA		3通	名古屋大学	6					○	40	45	17	23	0	125								125	兼2	
	特別講義A（生命農学本論）		1-3前	名古屋大学		1				○	11	1	0	0	0	12								12	兼2	
	特別講義A（研究リテラシー）		1-3後	名古屋大学		1				○	6	1	0	0	0	7								7		
	特別講義A（生命農学基礎講義）		1-3前	名古屋大学		1				○	0	2	4	1	0	7								7		
	特別講義A（データサイエンス1）		1-3通	名古屋大学		1				○	0	1	0	0	0	1								1		
	特別講義A（データサイエンス2）		1-3通	名古屋大学		1				○	0	0	2	0	0	2								2		
	特別講義A（データサイエンス3）		1-3通	名古屋大学		1				○	0	0	1	0	0	1								1		
小計（9科目）		—			18	6	0		—	40	45	17	23	0	125	0	0	0	0	0	0	0	18			
研究指導			1-3通	名古屋大学					—	40	45	17	23	0	125								125	兼2		
合計（9科目）			—		18	6	0		—	40	45	17	23	0	125	0	0	0	0	0	0	0	125	兼2		
学位又は称号	博士（農学）(Doctor of Philosophy)				学位又は学科の分野					農学関係																
卒業要件及び履修方法					開設大学等			開設単位数（必修）			授業期間等															
（国際連携生命農学専攻の修了要件） 原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究IA, IIIA、副大学開講科目から博士論文研究IIBとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上（そのうち特別講義Aから4単位、特別講義Bから2単位以上）、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。					名古屋大学			24(18)			1学年の学期区分					2学期										
											1学期の授業期間					15週										
											1時限の授業時間					90分										
（連携外国大学の修了要件） 原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究IB, IIIB、副大学開講科目から博士論文研究IIAとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上（そのうち特別講義Bから4単位、特別講義Aから2単位以上）、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。																										

---

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その2の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻）（西オーストラリア大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考								
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学													
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計					
5 専 門 科 目	博士論文研究ⅠB		1通	西オーストラリア大学	6					○							16	7	8	1	0	32	32						
	博士論文研究ⅡB		2通	西オーストラリア大学	6					○							16	7	8	1	0	32	32						
	博士論文研究ⅢB		3通	西オーストラリア大学	6					○							16	7	8	1	0	32	32						
	特別講義B（自然科学テーママネジメント・分析特論）		1-3通	西オーストラリア大学		2				○							0	0	1	0	0	1	1						
	特別講義B（サイエンスプレゼンテーションセミナー）		1-3通	西オーストラリア大学		2				○							0	0	1	0	0	1	1						
	特別講義B（アカデミックライティングワークショップ）		1-3通	西オーストラリア大学		2				○							0	0	1	0	0	1	1						
小計（6科目）			—		18	6	0		—							0	0	0	0	0	0	16	7	8	1	0	32	32	
研究指導			1-3通	西オーストラリア大学					—								16	7	8	1	0	32	32						
合計（6科目）			—		18	6	0		—							0	0	0	0	0	0	16	7	8	1	0	32	32	
学位又は称号	博士（農学）(Doctor of Philosophy)			学位又は学科の分野			農学関係																						
卒業要件及び履修方法	開設大学等			開設単位数（必修）		授業期間等																							
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究Ⅰ、Ⅲ、副大学開講科目から博士論文研究Ⅱとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上（そのうち副大学で少なくとも2単位以上）、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 ことを要件とする。	西オーストラリア大学			24(18)		1学年の学期区分					2学期																		
	西オーストラリア大学			24(18)		1学期の授業期間					15週																		
	西オーストラリア大学			24(18)		1時限の授業時間					90分																		
(連携外国大学の修了要件) 原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から博士論文研究ⅠB、ⅢB、副大学開講科目から博士論文研究ⅡAとして18単位を修得し、特別講義は6単位以上（そのうち特別講義Bから4単位、特別講義Aから2単位以上）、合計24単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。																													

---

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その2の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。



## 授業科目の概要(国際連携学科等)

(生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻)

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	名古屋大学	博士論文研究ⅠA	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成・提出する。主大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果をとりまとめる。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅡA	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを修得する。副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅢA	主大学において研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	名古屋大学	特別講義A 生命農学本論	生命農学は、生命科学の基盤の拡充、生物機能・生物資源の高度利用、生命共生環境の創出・保全、および持続的生物生産と先端生命科学の技術開発を通して環境に調和した人類の発展を目指す総合的な学問分野である。本講義では、生命農学研究科における「教育と研究の基本方針」「社会的貢献の基本目標」「教育と研究の体制」について理解を深めるとともに、生命農学を構成する学問領域における最先端研究のあり方について考究し、さらに社会的および国際観点から生命農学について俯瞰することを目的とする。  (オムニバス方式/全8回)  (14 川北一人/1回) 1. 生命農学研究科の「教育と研究の基本方針」「社会的貢献の基本目標」「教育と研究の体制」について (2 竹中千里、7 山本浩之/1回) 2. 森林圏・資源科学領域における最先端研究 (15 芦荊基行、53 土井一行/1回) 3. 植物生産科学領域における最先端研究 (25 池田素子、127 吉村崇/1回) 4. 動物機能・生産科学領域における最先端研究 (39 森仁志/1回) 5. 生命分子機能科学領域における最先端研究 (76 小田裕昭/1回) 6. 生命分子機能科学領域における最先端研究 (54 竹下広宣/1回) 7. 社会的観点からの生命農学 (126 江原宏/1回) 8. 国際的観点からの生命農学	
	名古屋大学	特別講義A 研究リテラシー	生命農学研究を行う上で必須となる事項について理解することを目的とする。  (オムニバス方式/全8回)  (32 中野秀雄/3回) 1. 労働法、3. 知的財産、8. キャリアパス (8 土川 寛/2回) 2. 研究倫理、4. 化学物質取扱 (66 三浦 健/1回) 5. 組換えDNA実験の安全取扱 (24 山本直之/1回) 6. 動物実験倫理 (14 川北一人、9 谷口光隆/1回) 7. 安全保障輸出管理	

専門科目	名古屋大学	特別講義A 生命農学基礎講義	The aim of this course is to learn basics of bioagricultural sciences for own study. In this course students will learn Animal science, plant science, cell biology, biochemistry, soil science, genetics and statistics.	
	名古屋大学	特別講義A データサイエンス1	生命農学研究を行う上で必要な基礎統計解析法を習得することを目的とする。1. R言語入門, 2. R言語(データ入出力とプロット), 3. R言語(パッケージの利用), 4. 重回帰分析, 5. 主成分分析, 6. 因子分析, 7. クラスタ分析, 8. 非線形回帰分析	
	名古屋大学	特別講義A データサイエンス2	生命農学研究を行う上で必要なデータマイニングの基礎を習得することを目的とする。1. データマイニング概論, 2. Python言語入門, 3. Python言語(数値・文字列・型), 4. Python減と(変数・定数・リスト), 5. Python言語(制御構文), 6. Python減と(関数・パッケージ), 7. Python言語(画像入出力), 8. Python言語(画像処理基礎)	
	名古屋大学	特別講義A データサイエンス3	生命農学研究を行う上で必要なディープラーニングを習得することを目的とする。1. ディープラーニング入門, 2. 環境構築1(Linux), 3. 環境構築2(Python), 4. ディープラーニングによる数字の認識1, 5. ディープラーニングによる数字の認識2, 6. ディープラーニング演習(画像データの準備), 7. ディープラーニング演習(解析), 8. ディープラーニング演習(予測精度の検証)	
	西オーストラリア大学	博士論文研究IB	専門分野における過去の知見を集約し, これまでの研究の背景を総括するとともに, 研究課題の意義, 目標についてとりまとめ, 研究計画を作成・提出する。主大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し, 課題を遂行する。得られたデータを分析し, 成果をとりまとめる。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	西オーストラリア大学	博士論文研究IIB	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し, 課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション, プレゼンテーションのスキルを修得する。副大学での研究で得られたデータを分析し, 成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	西オーストラリア大学	博士論文研究IIIB	主大学において研究課題を遂行し, 主大学, 副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し, 専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	西オーストラリア大学	特別講義B 自然科学データマネジメント・分析特論	様々な自然科学分野の研究で必要とされるデータ管理と分析の能力を養う。コースの前半では基礎的な知識や技術についての講義, 後半では各学生の研究分野により選択し実習するよう構成されている。コース全体を通し, 明確な仮説を展開し実験や調査を計画, 結果として生じるデータを調査・理解・分析し結論を導き出すといった応用アプローチをとる。統計解析ソフトRを導入し, データの管理・表示・分析に使用するとともに, 自然科学者の間で多用される一般的な分析方法も扱う。	
	西オーストラリア大学	特別講義B サイエンスプレゼンテーションセミナー	効果的なプレゼンテーションの構成や, ポスターの特徴に関するプレゼンテーションの基本を学ぶ。1. 効果的なプレゼンテーションを準備し行うための実践的な考え方, 2. 効果的ポスターについてのデモンストレーション	
西オーストラリア大学	特別講義B アカデミックライティングワークショップ	評価につながるアカデミックライティングの準備の仕方について実践的に理解する。1. アカデミックライティング, 2. 論文構成と審査員の期待値, 3. 一連の研究論文の中での掲載論文, 4. ジャーナル論文を書く		

	名古屋大学	研究指導	<p>(1 渡邊 彰)</p> <p>土壌圏を中心とした環境中における炭素, 窒素, 微量元素の動態に関する研究, 腐植物質の化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 竹中 千里)</p> <p>個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで, 幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 戸丸 信弘)</p> <p>森林群集・樹木個体群の構造と動態, 多様性, 繁殖生態, 生理生態, 物質生産に関する生態学, 集団遺伝学, 分子生態学, 生理生態学の研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 肘井 直樹)</p> <p>森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用, 生態系保全に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 原田 一宏)</p> <p>途上国の熱帯林保全と地域住民の生計向上をめざした森林管理政策, 地域住民を対象とした森林認証制度, 参加型森林管理及び, 国内の木材収穫技術, 森林作業の人間工学的解明, 森林利用と環境保全の両立, 及び持続可能な森林管理技術に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 福島 和彦)</p> <p>木質化の生化学, 抽出成分の化学, リグニンの化学, リグニン機能性物質の調製, 製紙科学, セルロースの化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 山本 浩之)</p> <p>樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構, 熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性, 木質形成の分子生物学, 生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 土川 寛)</p> <p>生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。</p> <p>(9 谷口 光隆)</p> <p>資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。</p> <p>(10 中園 幹生)</p> <p>栽培植物の系統分化, 形態形成, 遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 近藤 始彦)</p> <p>作物生産の生理・生態学的解析, とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。</p>	
--	-------	------	--	--

(12 山内 章)

水ストレス、塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明、緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(13 松本 省吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(14 川北 一人)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(15 芦荻 基行)

高等植物における環境適応と生存戦略に関する分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(16 松岡 信)

高等植物の形態形成、器官形成、植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究、及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。

(17 犬飼 義明)

開発途上国が直面している貧困、食料不足、環境破壊など農学領域の問題を、国内外の大学・研究機関と協力して、実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(18 一柳 健司)

脊椎動物におけるトランスポゾンや遺伝子のエピジェネティック制御機構の研究。生殖細胞形成期のエピゲノム制御機構の研究。種間および種内でのエピゲノムやゲノムの比較解析を通じた、ゲノムとエピゲノムの相互作用に関する研究指導を行う。

(19 本道 栄一)

哺乳類および鳥類の神経統御と生殖制御に関する器官を中心とした生体構造の機能形態学的研究に関する研究指導を行う。

(20 東村 博子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基础研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(21 堀尾 文彦)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(22 大蔵 聡)

反芻家畜の生理機能の調節機序に関する基礎研究とその機能を利用した動物生産にかかわる応用研究に関する研究指導を行う。

(23 松田 洋一)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究、動物遺伝資源の評価と保全・利用、ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成、量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(24 山本 直之)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(25 池田 素子)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用、昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(26 西川 俊夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(27 小鹿 一)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(28 北島 健)

受精、発生、神経機能、免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。

(29 北 将樹)

生物現象を司る天然物の単離、構造決定、合成、作用機序に関する研究。哺乳動物由来の麻痺性神経毒や、海洋生物の共生現象鍵物質に関する研究。蛍光プローブを用いた新たな標的分子の解析法の開発に関する研究指導を行う。

(30 青井 啓悟)

糖鎖高分子、生物機能高分子、生分解性高分子、植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計、精密合成、機能発現に関する研究。生物的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(31 吉村 徹)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(32 中野 秀雄)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(33 松田 幹)

高等動植物における蛋白質，核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態，および免疫，受精・発生，細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(34 浅川 晋)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(35 小林 哲夫)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について，主としてカビを材料として分子遺伝学的，化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(36 榊原 均)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について，特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て，生化学的，分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(37 藤田 祐一)

クロロフィル生合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を，主としてシアノバクテリア・植物を材料として，生化学的，細胞分子生物学的，分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。

(38 小俣 達男)

光合成生物におけるCO<sub>2</sub>・NO<sub>3</sub>-の同化とクロロフィル生合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。

(39 森 仁志)

高等植物の生長，分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(40 服部 東穂)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(41 山本 一清)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで，幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(42 田中 隆文)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明，森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(43 中川 弥智子)

森林群集・樹木個体群の構造と動態，多様性，繁殖生態，生理生態，物質生産に関する生態学，集団遺伝学，分子生態学，生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(44 梶村 恒)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用，生態系保全に関する研究指導を行う。

(45 松下 泰幸)

木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(46 今井 貴規)

樹木抽出成分の単離・構造決定，生合成，分布および利用に関する研究指導を行う。

(47 吉田 正人)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(48 山崎 真理子)

木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性，木質構造の力学挙動解析，森林資源の材質分布と需給計画，木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。

(49 矢野 勝也)

作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(50 白武 勝裕)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に，花器官の形成，開花，花色に関する生理，また，果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(51 竹本 大吾)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学，生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(52 吉岡 博文)

植物-病原菌相関で誘導される植物免疫の分子機構に関する研究指導を行う。

(53 土井 一行)

イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。

(54 竹下 広宣)

食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理，農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。

(55 佐塚 隆志)

高等植物の形態形成，器官形成，植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究，及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。

(56 上口 美弥子)

有用農業形質についての資源保存及び形態形質に関する分子遺伝学的研究に関する研究指導を行う。

(57 槇原 大悟)

開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。

(58 伊藤 香純)

開発途上国が直面している貧困，食料不足，環境破壊など農学領域の問題を，国内外の大学・研究機関と協力して，実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(59 石川 明)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(60 大川 妙子)

脊椎動物（哺乳類，鳥類，魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(61 上野山 賀久)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基礎研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(62 村井 篤嗣)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。



(63 松山 秀一)

反芻家畜の生理機能の調節機序に関する基礎研究とその機能を利用した動物生産にかかわる応用研究に関する研究指導を行う。

(64 鈴木 孝幸)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究、動物遺伝資源の評価と保全・利用、ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成、量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(65 阿部 秀樹)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(66 三浦 健)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(67 中崎 敦夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(68 中川 優)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(69 野村 信嘉)

糖鎖高分子、生物機能高分子、生分解性高分子、植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計、精密合成、機能発現に関する研究。生物的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(70 柴田 貴広)

食と健康をキーワードとした基礎研究、特に生活習慣病に関連した内因性因子としての酸化ストレス、及び外因性環境因子としての機能性食品に関する研究指導を行う。

(71 邊見 久)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(72 岩崎 雄吾)

新規な生物機能分子、生物反応プロセス、解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(73 柴田 秀樹)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送，小胞体を経由しない細胞外分泌，遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(74 灘野 大太)

高等動植物における蛋白質，核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態，および免疫，受精・発生，細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(75 MATURANA Andres Daniel)

真核生物における膜輸送体タンパク質，細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(76 小田 裕昭)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(77 村瀬 潤)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(78 木村 眞)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について，主としてカビを材料として分子遺伝学的，化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(79 木羽 隆敏)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について，特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て，生化学的，分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(80 石黒 澄衛)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について，特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て，生化学的，分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(81 山篠 貴史)

クロロフィル生合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を，主としてシアノバクテリア・植物を材料として，生化学的，細胞分子生物学的，分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。

(82 伊藤 正樹)

高等植物の生長，分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(83 佐藤 ちひろ)

受精，発生，神経機能，免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。

(84 上口 智治)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(85 武田 真)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(86 小川 一治)

森林群集・樹木個体群の構造と動態，多様性，繁殖生態，生理生態，物質生産に関する生態学，集団遺伝学，分子生態学，生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(87 青木 弾)

木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(88 松尾 美幸)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(89 稲垣 哲也)

生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。

(90 三屋 史朗)

水ストレス，塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明，緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(91 太田垣 駿吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に，花器官の形成，開花，花色に関する生理，また，果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(92 井上 直子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基礎研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(93 小林 美里)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(94 水口 智江可)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(95 安立 昌篤)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発，天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(96 近藤 竜彦)

植物，微生物，海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定，作用機構，生合成，受容体に関する研究指導を行う。

(97 伊藤 智和)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(98 児島 孝明)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(99 新美 友章)

真核生物における膜輸送体タンパク質，細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(100 北浦 靖之)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(101 渡邊 健史)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(102 金丸 京子)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について，主としてカビを材料として分子遺伝学的，化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(103 富岡 利恵)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで、幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(104 小谷 亜由美)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明、森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(105 土岐 和多瑠)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用、生態系保全に関する研究指導を行う。

(106 安藤 幸世)

木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性、木質構造の力学挙動解析、森林資源の材質分布と需給計画、木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。

(107 大井 崇生)

資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。

(108 高橋 宏和)

栽培植物の系統分化、形態形成、遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(109 杉浦 大輔)

作物生産の生理・生態学的解析、とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(110 野田口 理孝)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(111 佐藤 育男)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(112 西内 俊策)

イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。

(113 三浦 聡)

食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理、農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。

(114 山縣 高宏)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(115 塚田 光)

脊椎動物(哺乳類，鳥類，魚類)の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(116 後藤 麻木)

水産動物の神経系，感覚器，運動器に関する形態学的，生理・生態学的，進化的行動学的研究，ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(117 山田 早人)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用，昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(118 DAMNJANOVIC Jasmina)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(119 高原 照直)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送，小胞体を経由しない細胞外分泌，遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(120 大島 健司)

高等動植物における蛋白質，核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態，および免疫，受精・発生，細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(121 前尾 健一郎)

栄養などの環境変化に应答した植物の器官分化・成長調節機構について，特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て，生化学的，分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(122 中西 洋一)

膜輸送システムと生体膜情報変換システムの分子構造・作動機構・細胞特異性および生理機能に関する研究指導を行う。

(123 前田 真一)

光合成生物におけるCO<sub>2</sub>・NO<sub>3</sub>-の同化とクロロフィル生合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。

(124 橋本 (杉本) 美海)

植物における環境変化の感知と応答の分子機構について、重力屈性を中心に分子遺伝学・細胞生物学・生理学的研究に関する研究指導を行う。

(126 江原 宏)

開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。

(127 吉村 崇)

脊椎動物（哺乳類，鳥類，魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

	西オーストラリア大学	研究指導	<p>(1 Anthony O'Donnell) 農地土壌および汚染地を含む様々なシステム内の遺伝子と環境の相互作用の調査研究、もしくは複雑系における生物間の相互作用や、生物と土壌環境の管理間相互作用が果たす機能に関する研究の指導を行う。</p> <p>(2 Daniel Murphy) 様々な分子、同位体、生化学、酵素ツールを用い、微生物の生態や養分循環、微生物の機能と多様性、土壌の生物学的肥沃度、炭素隔離、営農体系といった視点での環境科学研究の指導を行う。</p> <p>(3 Graeme Martin) 特に鳥類での生殖生理の研究と、人工授精への展開に注目し、動物の生殖と環境要因の関係性に関する研究の指導を行う。</p> <p>(4 Philip Vercoe) 反芻動物における生産システムと、放牧システムの中での生物学的多様性を備えた生産性の調整方法に関する研究の指導を行う。また、ヒツジやウシから排出されるメタンを、植物の二次化合物における非メタン生成特性や関連遺伝子の探索により減少させるといった研究の指導も行う。</p> <p>(5 Dominique Blache) 動物の感情的反応や認知機能及び食物摂取と成長の調整を含む未熟子ヒツジの神経発達、動物の繁殖に関する研究の指導を行う。</p> <p>(6 Andrew Whiteley) 環境科学として、特に鉱山における環境修復について、微生物生態学及び土壌学的研究の指導を行う。</p> <p>(7 Louise Barton) 様々な土地利用条件下での窒素循環に関する環境科学的研究、環境への望ましくない窒素放出を抑える土壌管理方法に関する研究の指導を行う。</p> <p>(8 Matthew Hipsey) 水質、環境的水文学、灌漑システムのモデリング、河川流域の持続性、水資源への気候変化による影響といった要素の、環境科学における研究の指導を行う。</p> <p>(9 Nik Callow) 水文学、河川地形学、環境水文学の観点から土地管理の効果を評価し、人と自然環境システムの相互作用ほか自然地理学の研究の指導を行う。</p> <p>(10 Kadambot Siddique) 土壌水分が制限された状況下での作物（コムギ、マメ科作物を含む）の環境適応を中心とした作物生理学的な研究の指導を行う。</p> <p>(11 William Erskine) 国内外の食品安全保障のために必要な作物育種に関する研究、特にマメ科（レンテイル豆）や牧草であるサブタレアニアクローバーを用いた研究の指導を行う。</p>	
--	------------	------	---	--



(12 Wallace Cowling)

種間交雑，ダブルハプロイド，形質転換，ハイブリッド開発などを通し，アブラナ科の油糧種子改良を行う新しい方法に目を向け，ナタネとその近縁種との交配を行い，分子マーカーやその他の手法による遺伝子型の同定を行い，ゲノミックセレクションによる作物改良に関する植物科学研究の指導を行う。

(13 Martin Barbetti)

アブラナ科の油糧種子作物，マメ科飼料作物，マメ類作物，イネ科作物，園芸作物といった幅広い範囲の真菌病での研究をカバーする植物科学分野，特に菌分類，植物病理，作物保護に関する研究の指導を行う。

(14 Megan Ryan)

マメ科牧草が土壌からリンを吸収する機能を改良してリン利用効率の高い牧草を開発し，不安定なリン供給に対する植物の適応の研究など，植物科学分野の根圏プロセス・根系形態学・根系生理学の研究の指導を行う。

(15 Zed Rengel)

硫酸塩，リン，カリウム，マグネシウム，カルシウム，亜鉛，銅，マンガンといった栄養素，またアルミニウム，ヒ素，ナトリウムといった毒性イオンに注目し，植物科学分野で土壌-植物-水-生物の連続体からもたらされる栄養摂取とイオン毒性に関する研究の指導を行う。

(16 Tim Cokmer)

細胞生物学から生理生態学的な観点まで，植物の適応能力を包括的に理解し，植物組織の様々な段階でのメカニズムを解明する方法をとり，高塩類集積土壌や過湿土壌への植物の適応性に関する形質を同定し，それら形質の制御に関する研究の指導を行う。

(17 Jeremy Smith)

哺乳類における神経内分泌分野の研究，特に，哺乳類の生殖制御における研究で，ゴナドトロピン放出ホルモンの分泌を促進するキスペプチンの役割を遺伝子欠損マウスなどを用い解明する研究の指導を行う。

(18 Jane Pillow)

人間科学の分野を専門とし，未熟児の循環器の改善および人口呼吸器と産後ケアへの新しいアプローチを試みるモデルとして，早産子羊を対象に早産によりおこる胚の病気の研究の指導を行う。

(19 Shane Maloney)

哺乳類及び鳥類動物の生理学研究，特に，動物が環境ストレスに適応し体温の恒常性を保つために働かせる脳の温度調整能と一連の仕組みに関する研究，アルパカの栄養学，動物倫理・福祉といった領域との研究の指導を行う。

(20 Alice Vrieling)

タンパク質の結晶に関する高分子3D構造，髄膜炎の発生要因である髄膜炎菌種でのエンドトキシンの結晶学や，ミトコンドリアがサイトゾルtRNAを取り込み活用するメカニズムの解明，ミトコンドリアの外膜上の反応，高分子を運ぶ性質を解明するタンパク質生理物理学，機能特性分野での研究の指導を行う。

(21 Martha Ludwig)

細胞生物学, 分子生物学, 遺伝子的研究手法を駆使し, 抗体や核酸プローブを用いた組織レベルでの遺伝子発現解析を行うことで, C4型光合成の分子進化に関する研究の指導を行う。

(22 Nicolas Taylor)

コムギ等の作物の生産量増加につなげるべく, ペプチド選択反応モニタリング (SRM) 質量分析法を用いて, コムギや他の植物内でいかに代謝物・タンパク質・資質の生合成等を環境変化に対応させているかを理解する研究の指導を行う。

(23 Ian Small)

植物細胞内で, mRNAをタンパク質に翻訳する際の制御機構や, 細胞小器官へのRNAやタンパク質の輸送に関する研究, シロイヌナズナの核ゲノム配列決定後の機能的ゲノム解析に関して指導を行う。また, シロイヌナズナゲノム上で多重遺伝子ファミリーを形成しているPPRタンパク質遺伝子の機能解析に関する研究の指導も行う。

(24 Harvey Millar)

生化学及び分子生物学的手法を組み合わせ、植物のミトコンドリアの機能を明らかにする研究の指導を行う。また, シロイヌナズナ, イネ, コムギを用い, 植物のストレス耐性や環境変動下での植物の応答におけるミトコンドリア機能を解明する研究や, ビタミン合成の場としてのミトコンドリア利用を進めるための研究の指導を行う。

(25 Joshua Mylne)

タンパク質の構造の進化, 生理活性の高いペプチドの生合成の分子機構, 新規除草剤の発見に関する研究の指導を行う。

(26 Yit Heng Chooi)

分子遺伝学・生化学的手法を用いて, 動植物に感染する病原性菌類の二次代謝産物の生合成経路の解明, 及び二次代謝産物の働きに関する研究の指導を行う。

(27 Peta Clode)

動物及び植物を対象とし, 生物学上の金属の役割, バイオミレラリゼーション・石灰化, 細胞の構造と機能の関係性, 栄養分の獲得戦略, 共生・寄生・疾患システムなどのイメージングや要素解析を通じた研究の指導を行う。

(28 Erik Veneklaas)

森林とそこにある植物種間のバランス, 植物・土壌・気候間の水分の動き, 硬葉植物の光合成, 植物内リンの分布の変化, 環境条件による葉の特質と植物機能の関係, 自然のエコシステムと変化させたエコシステムでの樹木の健全性など, 生態学・水文学に関する研究の指導を行う。

(29 David Edwards)

コムギ・アブラナ科植物・マメ科植物のゲノム特性解析, バイオインフォマティクス, 遺伝子型・表現型のアソシエーション解析などの研究の指導を行う。

			<p>(30 Patrick Finnegan)</p> <p>植物分子生物学や生化学的手法を用いて、植物の栄養分（特にリン）の取り込み及び利用効率、葉や根の発達、トランスクリプトーム、植物の呼吸の研究の指導を行う。</p> <p>(31 Michael Renton)</p> <p>複雑な生物学、農学及び生態系における植物をコンピュータによりシミュレーションモデリングする方法で、例えば農業システムの雑草が除草剤に対する耐性をいかに進化させたか、進化の度合い、異なる遺伝的特徴についてなど、植物と環境の関係を明らかにする研究の指導を行う。</p> <p>(32 Jacqueline Batley)</p> <p>アブラナ科、コムギ、ヒヨコ豆、ナタネ、ダイズといった重要作物を対象として、重要な農業形質を制御するゲノム領域を同定することで作物改良を促進する研究の指導を行う。</p>
--	--	--	---

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その3の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要（国際連携学科等）				
（生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻）（名古屋大学）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	名古屋大学	博士論文研究ⅠA	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成・提出する。主大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果をとりまとめる。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅡA	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを修得する。副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅢA	主大学において研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	名古屋大学	特別講義A 生命農学本論	生命農学は、生命科学の基盤の拡充、生物機能・生物資源の高度利用、生命共生環境の創出・保全、および持続的生物生産と先端生命科学の技術開発を通して環境に調和した人類の発展を目指す総合的な学問分野である。本講義では、生命農学研究科における「教育と研究の基本方針」「社会的貢献の基本目標」「教育と研究の体制」について理解を深めるとともに、生命農学を構成する学問領域における最先端研究のあり方について考究し、さらに社会的および国際観点から生命農学について俯瞰することを目的とする。  (オムニバス方式/全8回)  (14 川北一人/1回) 1. 生命農学研究科の「教育と研究の基本方針」「社会的貢献の基本目標」「教育と研究の体制」について (2 竹中千里、7 山本浩之/1回) 2. 森林圏・資源科学領域における最先端研究 (15 芦荻基行、53 土井一行/1回) 3. 植物生産科学領域における最先端研究 (25 池田素子、127 吉村崇/1回) 4. 動物機能・生産科学領域における最先端研究 (39 森仁志/1回) 5. 生命分子機能科学領域における最先端研究 (76 小田裕昭/1回) 6. 生命分子機能科学領域における最先端研究 (54 竹下広宣/1回) 7. 社会的観点からの生命農学 (126 江原宏/1回) 8. 国際的観点からの生命農学	オムニバス方式
	名古屋大学	特別講義A 研究リテラシー	生命農学研究を行う上で必須となる事項について理解することを目的とする。  (オムニバス方式/全8回)  (32 中野秀雄/3回) 1. 労働法、3. 知的財産、8. キャリアパス (8 土川 寛/2回) 2. 研究倫理、4. 化学物質取扱 (66 三浦 健/1回) 5. 組換えDNA実験の安全取扱 (24 山本直之/1回) 6. 動物実験倫理 (14 川北一人、9 谷口光隆/1回) 7. 安全保障輸出管理	オムニバス方式

専門科目	名古屋大学	特別講義A 生命農学基礎講義	The aim of this course is to learn basics of bioagricultural sciences for own study. In this course students will learn Animal science, plant science, cell biology, biochemistry, soil science, genetics and statistics.	
	名古屋大学	特別講義A データサイエンス 1	生命農学研究を行う上で必要な基礎統計解析法を習得することを目的とする。1. R言語入門, 2. R言語 (データ入出力とプロット), 3. R言語 (パッケージの利用), 4. 重回帰分析, 5. 主成分分析, 6. 因子分析, 7. クラスタ分析, 8. 非線形回帰分析	
	名古屋大学	特別講義A データサイエンス 2	生命農学研究を行う上で必要なデータマイニングの基礎を習得することを目的とする。1. データマイニング概論, 2. Python言語入門, 3. Python言語 (数値・文字列・型), 4. Python減と (変数・定数・リスト), 5. Python言語 (制御構文), 6. Python減と (関数・パッケージ), 7. Python言語 (画像入出力), 8. Python言語 (画像処理基礎)	
	名古屋大学	特別講義A データサイエンス 3	生命農学研究を行う上で必要なディープラーニングを習得することを目的とする。1. ディープラーニング入門, 2. 環境構築 1 (Linux), 3. 環境構築 2 (Python), 4. ディープラーニングによる数字の認識 1, 5. ディープラーニングによる数字の認識 2, 6. ディープラーニング演習 (画像データの準備), 7. ディープラーニング演習 (解析), 8. ディープラーニング演習 (予測精度の検証)	
	名古屋大学	研究指導	<p>(1 渡邊 彰)</p> <p>土壌圏を中心とした環境中における炭素, 窒素, 微量元素の動態に関する研究, 腐植物質の化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 竹中 千里)</p> <p>個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで, 幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 戸丸 信弘)</p> <p>森林群集・樹木個体群の構造と動態, 多様性, 繁殖生態, 生理生態, 物質生産に関する生態学, 集団遺伝学, 分子生態学, 生理生態学に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 肘井 直樹)</p> <p>森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用, 生態系保全に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 原田 一宏)</p> <p>途上国の熱帯林保全と地域住民の生計向上をめざした森林管理政策, 地域住民を対象とした森林認証制度, 参加型森林管理及び, 国内の木材収穫技術, 森林作業の人間工学的解明, 森林利用と環境保全の両立, 及び持続可能な森林管理技術に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 福島 和彦)</p> <p>木質化の生化学, 抽出成分の化学, リグニンの化学, リグニン機能性物質の調製, 製紙科学, セルロースの化学に関する研究指導を行う。</p>	

(7 山本 浩之)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(8 土川 寛)

生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。

(9 谷口 光隆)

資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。

(10 中園 幹生)

栽培植物の系統分化，形態形成，遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(11 近藤 始彦)

作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(12 山内 章)

水ストレス，塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明，緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(13 松本 省吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に，花器官の形成，開花，花色に関する生理，また，果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(14 川北 一人)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学，生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(15 芦荻 基行)

高等植物における環境適応と生存戦略に関する分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(16 松岡 信)

高等植物の形態形成，器官形成，植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究，及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。

(17 犬飼 義明)

開発途上国が直面している貧困，食料不足，環境破壊など農学領域の問題を，国内外の大学・研究機関と協力して，実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(18 一柳 健司)

脊椎動物におけるトランスポゾンや遺伝子のエピジェネティック制御機構の研究。生殖細胞形成期のエピゲノム制御機構の研究。種間および種内でのエピゲノムやゲノムの比較解析を通じた、ゲノムとエピゲノムの相互作用に関する研究指導を行う。

(19 本道 栄一)

哺乳類および鳥類の神経統御と生殖制御に関する器官を中心とした生体構造の機能形態学的研究に関する研究指導を行う。

(20 東村 博子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基礎研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(21 堀尾 文彦)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(22 大蔵 聡)

反芻家畜の生理機能の調節機序に関する基礎研究とその機能を利用した動物生産にかかわる応用研究に関する研究指導を行う。

(23 松田 洋一)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究、動物遺伝資源の評価と保全・利用、ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成、量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(24 山本 直之)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(25 池田 素子)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用、昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(26 西川 俊夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(27 小鹿 一)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(28 北島 健)

受精，発生，神経機能，免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。

(29 北 将樹)

生物現象を司る天然物の単離，構造決定，合成，作用機序に関する研究。哺乳動物由来の麻痺性神経毒や，海洋生物の共生現象鍵物質に関する研究。蛍光プローブを用いた新たな標的分子の解析法の開発に関する研究指導を行う。

(30 青井 啓悟)

糖鎖高分子，生物機能高分子，生分解性高分子，植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計，精密合成，機能発現に関する研究。生物的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(31 吉村 徹)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(32 中野 秀雄)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(33 松田 幹)

高等動植物における蛋白質，核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態，および免疫，受精・発生，細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(34 浅川 晋)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(35 小林 哲夫)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について，主としてカビを材料として分子遺伝学的，化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(36 榊原 均)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について，特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て，生化学的，分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(37 藤田 祐一)

クロロフィル生合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を，主としてシアノバクテリア・植物を材料として，生化学的，細胞分子生物学的，分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。



(38 小俣 達男)

光合成生物におけるCO<sub>2</sub>・NO<sub>3</sub>-の同化とクロロフィル合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。

(39 森 仁志)

高等植物の生長、分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(40 服部 束穂)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(41 山本 一清)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで、幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(42 田中 隆文)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明、森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(43 中川 弥智子)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(44 梶村 恒)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用、生態系保全に関する研究指導を行う。

(45 松下 泰幸)

木質化の生化学、抽出成分の化学、リグニンの化学、リグニン機能性物質の調製、製紙科学、セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(46 今井 貴規)

樹木抽出成分の単離・構造決定、生合成、分布および利用に関する研究指導を行う。

(47 吉田 正人)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構、熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性、木質形成の分子生物学、生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(48 山崎 真理子)

木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性、木質構造の力学挙動解析、森林資源の材質分布と需給計画、木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。

(49 矢野 勝也)

作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(50 白武 勝裕)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に，花器官の形成，開花，花色に関する生理，また，果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(51 竹本 大吾)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学，生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(52 吉岡 博文)

植物一病原菌相関で誘導される植物免疫の分子機構に関する研究指導を行う。

(53 土井 一行)

イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。

(54 竹下 広宣)

食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理，農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。

(55 佐塚 隆志)

高等植物の形態形成，器官形成，植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究，及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。

(56 上口 美弥子)

有用農業形質についての資源保存及び形態形質に関する分子遺伝学的研究に関する研究指導を行う。

(57 槇原 大悟)

開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。

(58 伊藤 香純)

開発途上国が直面している貧困，食料不足，環境破壊など農学領域の問題を，国内外の大学・研究機関と協力して，実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(59 石川 明)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(60 大川 妙子)

脊椎動物（哺乳類，鳥類，魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(61 上野山 賀久)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基礎研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(62 村井 篤嗣)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(63 松山 秀一)

反芻家畜の生理機能の調節機序に関する基礎研究とその機能を利用した動物生産にかかわる応用研究に関する研究指導を行う。

(64 鈴木 孝幸)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(65 阿部 秀樹)

水産動物の神経系，感覚器，運動器に関する形態学的，生理・生態学的，進化的行動学的研究，ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(66 三浦 健)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(67 中崎 敦夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発，天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(68 中川 優)

植物，微生物，海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定，作用機構，生合成，受容体に関する研究指導を行う。

(69 野村 信嘉)

糖鎖高分子，生物機能高分子，生分解性高分子，植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計，精密合成，機能発現に関する研究。生物的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(70 柴田 貴広)

食と健康をキーワードとした基礎研究，特に生活習慣病に関連した内因性因子としての酸化ストレス，及び外因性環境因子としての機能性食品に関する研究指導を行う。

(71 邊見 久)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(72 岩崎 雄吾)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(73 柴田 秀樹)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送，小胞体を経由しない細胞外分泌，遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(74 灘野 大太)

高等動植物における蛋白質，核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態，および免疫，受精・発生，細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(75 MATURANA Andres Daniel)

真核生物における膜輸送体タンパク質，細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(76 小田 裕昭)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(77 村瀬 潤)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(78 木村 眞)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について，主としてカビを材料として分子遺伝学的，化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(79 木羽 隆敏)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について，特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て，生化学的，分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(80 石黒 澄衛)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について、特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て、生化学的、分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(81 山篠 貴史)

クロロフィル合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を、主としてシアノバクテリア・植物を材料として、生化学的、細胞分子生物学的、分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。

(82 伊藤 正樹)

高等植物の生長、分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(83 佐藤 ちひろ)

受精、発生、神経機能、免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。

(84 上口 智治)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(85 武田 真)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(86 小川 一治)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(87 青木 弾)

木質化の生化学、抽出成分の化学、リグニンの化学、リグニン機能性物質の調製、製紙科学、セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(88 松尾 美幸)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構、熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性、木質形成の分子生物学、生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(89 稲垣 哲也)

生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。

(90 三屋 史朗)

水ストレス、塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明、緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(91 太田垣 駿吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(92 井上 直子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基礎研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(93 小林 美里)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(94 水口 智江可)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(95 安立 昌篤)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(96 近藤 竜彦)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(97 伊藤 智和)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(98 児島 孝明)

新規な生物機能分子、生物反応プロセス、解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(99 新美 友章)

真核生物における膜輸送体タンパク質、細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(100 北浦 靖之)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(101 渡邊 健史)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(102 金丸 京子)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について、主としてカビを材料として分子遺伝学的、化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(103 富岡 利恵)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで、幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(104 小谷 亜由美)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明、森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(105 土岐 和多瑠)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用、生態系保全に関する研究指導を行う。

(106 安藤 幸世)

木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性、木質構造の力学挙動解析、森林資源の材質分布と需給計画、木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。

(107 大井 崇生)

資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。

(108 高橋 宏和)

栽培植物の系統分化、形態形成、遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(109 杉浦 大輔)

作物生産の生理・生態学的解析、とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(110 野田口 理孝)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(111 佐藤 育男)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(112 西内 俊策)

イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。

(113 三浦 聡)

食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理，農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。

(114 山縣 高宏)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(115 塚田 光)

脊椎動物（哺乳類，鳥類，魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(116 後藤 麻木)

水産動物の神経系，感覚器，運動器に関する形態学的，生理・生態学的，進化的行動学的研究，ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(117 山田 早人)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用，昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(118 DAMNJANOVIC Jasmina)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(119 高原 照直)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送，小胞体を経由しない細胞外分泌，遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(120 大島 健司)

高等動植物における蛋白質，核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態，および免疫，受精・発生，細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(121 前尾 健一郎)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について，特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て，生化学的，分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。



			<p>(122 中西 洋一) 膜輸送システムと生体膜情報変換システムの分子構造・作動機構・細胞特異性および生理機能に関する研究指導を行う。</p> <p>(123 前田 真一) 光合成生物におけるCO<sub>2</sub>・NO<sub>3</sub>-の同化とクロロフィル合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(124 橋本 (杉本) 美海) 植物における環境変化の感知と応答の分子機構について、重力屈性を中心に分子遺伝学・細胞生物学・生理学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(126 江原 宏) 開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(127 吉村 崇) 脊椎動物(哺乳類, 鳥類, 魚類)の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。</p>
--	--	--	--

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

## 授業科目の概要（国際連携学科等）

（生命農学研究科 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻）（西オーストラリア大学）

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	西オーストラリア大学	博士論文研究ⅠB	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成・提出する。主大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果をとりまとめる。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	西オーストラリア大学	博士論文研究ⅡB	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを修得する。副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へAnnual Report, 進捗サマリーを提出する。	
	西オーストラリア大学	博士論文研究ⅢB	主大学において研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	西オーストラリア大学	特別講義B 自然科学データマネジメント・分析特論	様々な自然科学分野の研究で必要とされるデータ管理と分析の能力を養う。コースの前半では基礎的な知識や技術についての講義、後半では各学生の研究分野により選択し実習するよう構成されている。コース全体を通し、明確な仮説を展開し実験や調査を計画、結果として生じるデータを調査・理解・分析し結論を導き出すといった応用アプローチをとる。統計解析ソフトRを導入し、データの管理・表示・分析に使用するとともに、自然科学者の間で多用される一般的な分析方法も扱う。	
	西オーストラリア大学	特別講義B サイエンスプレゼンテーションセミナー	効果的なプレゼンテーションの構成や、ポスターの特徴に関するプレゼンテーションの基本を学ぶ。1. 効果的なプレゼンテーションを準備し行うための実践的な考え方、2. 効果的なポスターについてのデモンストレーション	
	西オーストラリア大学	特別講義B アカデミックライティングワークショップ	評価につながるアカデミックライティングの準備の仕方について実践的に理解する。1. アカデミックライティング、2. 論文構成と審査員の期待値、3. 一連の研究論文の中での掲載論文、4. ジャーナル論文を書く	
	西オーストラリア大学	研究指導	<p>(1 Anthony O'Donnell)</p> <p>農地土壌および汚染地を含む様々なシステム内の遺伝子と環境の相互作用の調査研究、もしくは複雑系における生物間の相互作用や、生物と土壌環境の管理間相互作用が果たす機能に関する研究の指導を行う。</p> <p>(2 Daniel Murphy)</p> <p>様々な分子、同位体、生化学、酵素ツールを用い、微生物の生態や養分循環、微生物の機能と多様性、土壌の生物学的肥沃度、炭素隔離、営農体系といった視点での環境科学研究の指導を行う。</p>	

(3 Graeme Martin)

特に鳥類での生殖生理の研究と、人工授精への展開に注目し、動物の生殖と環境要因の関係性に関する研究の指導を行う。

(4 Philip Vercoe)

反芻動物における生産システムと、放牧システムの中での生物学的多様性を備えた生産性の調整方法に関する研究の指導を行う。また、ヒツジやウシから排出されるメタンを、植物の二次化合物における非メタン生成特性や関連遺伝子の探索により減少させるといった研究の指導も行う。

(5 Dominique Blache)

動物の感情的反応や認知機能及び食物摂取と成長の調整を含む未熟子ヒツジの神経発達、動物の繁殖に関する研究の指導を行う。

(6 Andrew Whiteley)

環境科学として、特に鉱山における環境修復について、微生物生態学及び土壌学的研究の指導を行う。

(7 Louise Barton)

様々な土地利用条件下での窒素循環に関する環境科学的研究、環境への望ましくない窒素放出を抑える土壌管理方法に関する研究の指導を行う。

(8 Matthew Hipsey)

水質、環境的水文学、灌漑システムのモデリング、河川流域の持続性、水資源への気候変化による影響といった要素の、環境科学における研究の指導を行う。

(9 Nik Callow)

水文学、河川地形学、環境水文学の観点から土地管理の効果を評価し、人と自然環境システムの相互作用ほか自然地理学の研究の指導を行う。

(10 Kadambot Siddique)

土壌水分が制限された状況下での作物（コムギ、マメ科作物を含む）の環境適応を中心とした作物生理学的な研究の指導を行う。

(11 William Erskine)

国内外の食物安全保障のために必要な作物育種に関する研究、特にマメ科（レンテイル豆）や牧草であるサブタレアニアクローバーを用いた研究の指導を行う。

(12 Wallace Cowling)

種間交雑、ダブルハプロイド、形質転換、ハイブリッド開発などを通し、アブラナ科の油糧種子改良を行う新しい方法に目を向け、ナタネとその近縁種との交配を行い、分子マーカーやその他の手法による遺伝子型の同定を行い、ゲノミックセレクションによる作物改良に関する植物科学研究の指導を行う。

(13 Martin Barbetti)

アブラナ科の油糧種子作物、マメ科飼料作物、マメ類作物、イネ科作物、園芸作物といった幅広い範囲の真菌病での研究をカバーする植物科学分野、特に菌分類、植物病理、作物保護に関する研究の指導を行う。

(14 Megan Ryan)

マメ科牧草が土壌からリンを吸収する機能を改良してリン利用効率の高い牧草を開発し、不安定なリン供給に対する植物の適応の研究など、植物科学分野の根圏プロセス・根系形態学・根系生理学の研究の指導を行う。

(15 Zed Rengel)

硫酸塩、リン、カリウム、マグネシウム、カルシウム、亜鉛、銅、マンガンといった栄養素、またアルミニウム、ヒ素、ナトリウムといった毒性イオンに注目し、植物科学分野で土壌-植物-水-生物の連続体からもたらされる栄養摂取とイオン毒性に関する研究の指導を行う。

(16 Tim Cokmer)

細胞生物学から生理生態学的な観点まで、植物の適応能力を包括的に理解し、植物組織の様々な段階でのメカニズムを解明する方法をとり、高塩類集積土壌や過湿土壌への植物の適応性に関する形質を同定し、それら形質の制御に関する研究の指導を行う。

(17 Jeremy Smith)

哺乳類における神経内分泌分野の研究、特に、哺乳類の生殖制御における研究で、ゴナドトロピン放出ホルモンの分泌を促進するキスペプチンの役割を遺伝子欠損マウスなどを用い解明する研究の指導を行う。

(18 Jane Pillow)

人間科学の分野を専門とし、未熟児の循環器の改善および人口呼吸器と産後ケアへの新しいアプローチを試みるモデルとして、早産子羊を対象に早産によりおこる胚の病気の研究の指導を行う。

(19 Shane Maloney)

哺乳類及び鳥類動物の生理学研究、特に、動物が環境ストレスに適応し体温の恒常性を保つために働かせる脳の温度調整能と一連の仕組みに関する研究、アルパカの栄養学、動物倫理・福祉といった領域との研究の指導を行う。

(20 Alice Vrieling)

タンパク質の結晶に関する高分子3D構造、髄膜炎の発生源である髄膜菌種でのエンドトキシンの結晶学や、ミトコンドリアがサイトゾルtRNAを取り込み活用するメカニズムの解明、ミトコンドリアの外膜上の反応、高分子を運ぶ性質を解明するタンパク質生理物理学、機能特性分野での研究の指導を行う。

(21 Martha Ludwig)

細胞生物学、分子生物学、遺伝子的研究手法を駆使し、抗体や核酸プローブを用いた組織レベルでの遺伝子発現解析を行うことで、C4型光合成の分子進化に関する研究の指導を行う。

(22 Nicolas Taylor)

コムギ等の作物の生産量増加につなげるべく、ペプチド選択反応モニタリング (SRM) 質量分析法を用いて、コムギや他の植物内でいかに代謝物・タンパク質・資質の生合成等を環境変化に対応させているかを理解する研究の指導を行う。

(23 Ian Small)

植物細胞内で、mRNAをタンパク質に翻訳する際の制御機構や、細胞小器官へのRNAやタンパク質の輸送に関する研究、シロイヌナズナの核ゲノム配列決定後の機能的ゲノム解析に関して指導を行う。また、シロイヌナズナゲノム上で多重遺伝子ファミリーを形成しているPPRタンパク質遺伝子の機能解析に関する研究の指導も行う。

(24 Harvey Millar)

生化学及び分子生物学的手法を組み合わせ、植物のミトコンドリアの機能を明らかにする研究の指導を行う。また、シロイヌナズナ、イネ、コムギを用い、植物のストレス耐性や環境変動下での植物の応答におけるミトコンドリア機能を解明する研究や、ビタミン合成の場としてのミトコンドリア利用を進めるための研究の指導を行う。

(25 Joshua Mylne)

タンパク質の構造の進化、生理活性の高いペプチドの生合成の分子機構、新規除草剤の発見に関する研究の指導を行う。

(26 Yit Heng Chooi)

分子遺伝学・生化学的手法を用いて、動植物に感染する病原性菌類の二次代謝産物の生合成経路の解明、及び二次代謝産物の働きに関する研究の指導を行う。

(27 Peta Clode)

動物及び植物を対象とし、生物学上の金属の役割、バイオミレラリゼーション・石灰化、細胞の構造と機能の関係性、栄養分の獲得戦略、共生・寄生・疾患システムなどのイメージングや要素解析を通じた研究の指導を行う。

(28 Erik Veneklaas)

森林とそこにある植物種間のバランス、植物・土壌・気候間の水分の動き、硬葉植物の光合成、植物内リンの分布の変化、環境条件による葉の特質と植物機能の関係、自然のエコシステムと変化させたエコシステムでの樹木の健全性など、生態学・水文学に関する研究の指導を行う。

(29 David Edwards)

コムギ・アブラナ科植物・マメ科植物のゲノム特性解析、バイオインフォマティクス、遺伝子型・表現型のアソシエーション解析などの研究の指導を行う。

(30 Patrick Finnegan)

植物分子生物学や生化学的手法を用いて、植物の栄養分（特にリン）の取り込み及び利用効率、葉や根の発達、トランスクリプトーム、植物の呼吸の研究の指導を行う。

			<p>(31 Michael Renton)</p> <p>複雑な生物学，農学及び生態系における植物をコンピュータによりシミュレーションモデリングする方法で，例えば農業システムの雑草が除草剤に対する耐性をいかに進化させたか，進化の度合い，異なる遺伝的特徴についてなど，植物と環境の関係を明らかにする研究の指導を行う。</p> <p>(32 Jacqueline Batley)</p> <p>アブラナ科，コムギ，ヒヨコ豆，ナタネ，ダイズといった重要作物を対象として，重要な農業形質を制御するゲノム領域を同定することで作物改良を促進する研究の指導を行う。</p>	
--	--	--	--	--

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は，別記様式第2号（その3の1）に代えて，この書類を作成すること。加えて，国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については，当該科目の単位を修得した場合に，単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。